

文章表現力を高めるためのコンピュータ利用

概要

コンピュータのワープロソフトは文章の執筆，推敲において大変便利で，文章表現力を高めるのに役立つものである。ここでは，ワープロソフトを使い，コンピュータリテラシー及び説明文・意見文の表現力を高める授業の在り方を考えた。

キーワード 国語，表現力，コンピュータリテラシー，ワープロソフト

1 授業のねらい

コンピュータのワープロソフトを使えば，文（あるいは文節）の移動や表現の変更が容易になり，文章執筆に非常に便利である。また，そのソフトにある文書校正機能を使えば，文法的な面を中心とした推敲作業がかなり簡単にできる。

以上2点の特徴を生かし，生徒の表現力を高めるために，ワープロソフトを利用した授業を計画した。具体的な学習目標は，以下の通りである。

(1) 文書校正機能を含めたワープロソフトの利用法について習熟する。(コンピュータリテラシーの向上)

- ・ワープロソフトを用いての清書の段階から，直接入力 of 段階へと進むようにした。
- ・推敲の段階で文書校正機能を利用するようにした。

(2) ワープロソフトを使い，自分の文章の特徴について理解する。

- ・文書校正機能の一つを利用して，一文の長さなど自分の文章の特徴を理解するようにした。

(3) 説明文・意見文の構成に留意し，表現力を高める。

- ・論理的文章の表現力を高めるため，構成に重点を置いて指導することにした。
- ・意見文を作成するときには，情報の収集・活用のし方，説得力ある文章の書き方（情報の発信にかかわる面）についてふれることにした。

なお，高等学校1年生段階での授業を想定した。

2 ワープロソフトについて

」社のワープロソフトについている「文書校正」機能を使えば，誤字脱字，仮名遣い，ら抜き表現，常用漢字，一文の長さ，表記のゆれなどがチェックできる。また，その中の「読みやすさ」の項目を利用すれば，指定した文章の平均文長，平均句読点間隔，漢字・カタカナ使用率を表示することができる。この学習指導計画では，このワープロソフトの利用を想定した。他社のものでも，最近では機能が高まっているので，同様なことが可能であろう。

3 学習指導計画

時	学習指導内容
第1時	これからの授業のオリエンテーション 説明文の主題と構想の決定 教師の設定した題目について思いつくことを書き出す。その後，主題を決め，構想を練り，アウトラインを考える。(構想メモ用紙利用。題目は「～の魅力」など。～には好きなスポーツ・趣味などを選んで入れる。短い文章で書きやすい題目にする。) 作文用紙を利用しての説明文執筆(400字)
	コンピュータの扱い方の復習 中学校で学習してきた内容を確認し，各高校のコンピュータ環境

第2時	<p>に慣れるため、デスクトップ画面の扱い方や、アプリケーションソフトの開き方などについて復習する。</p> <p>ワープロソフトでの入力演習 文字入力の仕方、訂正の仕方、コピー・移動の仕方などについて説明・演習する。</p>	<p>明する。</p> <p>修正した文章の保存 修正した文章をフロッピーへ保存する。フロッピーとプリントアウトした文章を提出する。 (ネットワークコンピュータならば、生徒は自分の文章を教師のフォルダに転送する。)</p>
第3時	<p>第1時に作成した文章の、ワープロソフトによる入力 構成を考えての推敲 序論・本論・結論という三段構成について教師が説明する。それを頭において生徒は自分の文章を推敲する。 フロッピーへの保存</p>	<p style="text-align: center;">文書校正画面例</p> <p style="text-align: center;">会議の終わった後、血圧の測定や心電図検査を行った。しかし、<u>異常は認められませんでした</u>。(波線部がチェックされた部分)</p>
第4時	<p>自分の文章の特徴の把握と他の文章との比較 (以下、<u> </u>についてはワープロソフトの文書校正機能の使い方を教師が説明した後、生徒がやってみる。)</p> <p>まず、「読みやすさ」のチェック機能を使って、自分の書いた文章の特徴を把握する。 (他の生徒の文章や、教科書所収の作家の文章と特徴を比較することもできる。教科書所収の作家の文章の特徴については、あらかじめ指導書に付いているフロッピーなどで教師が調べておく。)</p> <p>ワープロソフトの文書校正機能による推敲 推敲のポイントは以下の4点 - 主に文法的な面 - とする。 (ア) 長すぎる文。 (イ) 文体が統一されていない文。 (ウ) 誤字・脱字。(以上3点はワープロソフトの文書校正機能によってチェック) (エ) 主語・述語の関係、修飾関係のわかりにくい文。(これは、主に自分で読んでチェック) 以上の点について、プロジェクターによって悪文例を示しながら説</p>	<p>第5時</p> <p>教師による作文の評価、紹介 生徒の作文を返却し、プロジェクターで良い文章例などを紹介しながら留意点を説明する。評価の観点は以下の3点。 (ア) 序論・本論・結論の分量。 (イ) 本論の具体性。 (ウ) 結論の明確さ、本論とのつながり。 (教師は、提出された生徒の作文の中から、構成面で参考になるものなどを見つけておく。個々人への添削は余裕があれば行う。)</p> <p>自分の作文の注意すべき点のまとめ 意見文の作成(その1) - 主題と構想の決定 600字の意見文を作成する。 まず、教師は下記の意見文作成の留意点について説明する。 ア 具体的なデータに基づいて書くこと。 イ 自分の意見と対立する見解を踏まえて説得力のあるように書くこと 題目は、「最近の新聞で話題になったこと」とする。この時間中は、主題を決め、構想を練る。(構想メモ用紙利用。第1時参照) (生徒には、あらかじめその話題</p>

	についての情報 - 具体的データや対立する見解など - を収集しておくように指示しておく。)
第6時	意見文の作成(その2) - アウトラインの決定とワープロソフトによる入力 前時に作成した構想メモにしたがってアウトラインを決め、ワープロソフトで <u>直接入力</u> していく。 入力した文章のフロッピーへの保存。
第7時	構成・意見文作成の留意点についての生徒同士の相互評価と推敲 作文をプリントアウトする。構成と意見文作成の留意点をチェックポイントにして生徒同士で相互評価する(3人グループ)。指摘された点を推敲する。 ワープロソフトの文章校正機能による、自分の文章の推敲 第4時と同様に、主に文法面についてコンピュータでチェックする。 修正した文章の保存(第4時と同様に行う)
第8時	教師による作文の評価、紹介 第5時と同様に行う。 自分の作文の注意すべき点のまとめ

今回の学習指導計画ではワープロソフトを使い、文章表現力を高めることを考えた。ほかにもチラシを作成する、グラフ・表も入ったレポートを作成する(これから「総合的な学習の時間」にかかわって必要になってくるだろう)などいろいろな授業が考えられるだろう。

また、プレゼンテーションソフトを使って、音声言語による表現力、資料の作成・提示の能力などのプレゼンテーション能力を高める授業なども提案されている。

(4) 文法や漢字使用の力などを高めるための利用法

自作あるいは市販の学習ソフトを使い、生徒に自分のペースで学習させ、文法や漢字使用の力などを高める。

高校生はすでに中学校の技術・家庭科でコンピュータの基本的原理について学び、簡単なアプリケーションソフトを利用している。そのため、私たちが想像するよりコンピュータ利用について抵抗感が少なくなっている。国語科教師も、広い視野を持ち、コンピュータを活用した授業を実施していきたい。

【参考文献】

- ・大平浩哉編著「新しい授業の工夫 20 選 第4集」大修館書店 1998
- ・市毛勝雄「作文の授業改革論」明治図書 1997

4 まとめ

現在、高等学校国語科においてもコンピュータを利用した授業が少しずつ実施されつつある。コンピュータの利用法としては、以下のようなものが考えられる。

- (1) 関心・意欲を高めるための利用法
作家紹介のCD-ROMなどを使い、生徒の関心・意欲を高め、知識を広げる。
- (2) 情報収集能力を高めるための利用法
レポート作成の授業で、図書資料・新聞資料のほか、インターネットも利用させ、生徒の情報収集能力を高める。
- (3) 表現力を高めるための利用法